

第35回 日本高血圧学会総会

第35回日本高血圧学会総会を平成24年9月20～22日(木～土)の3日間、ウェスティンナゴヤキャッスルおよび名古屋能楽堂にて開催いたしました。長い歴史のなかで、本総会を名古屋ではじめて開催できたことを光榮に思っています。3,000人を超える参加者を得て、過去最大級の賑わいを見せました。前日にあたる9月19日(水)には各種委員会やその後の評議員懇親会、それに学会最終日翌日の9月23日(日)には3つ目の市民公開講座があり、これらを含めると5日間にも及び、振り返れば体力的にも非常に重たい学会でありました。

本学術総会のテーマは「高血圧治療は究極の目標へ」といたしました。巨視的にみれば、高血圧の治療はほぼ完成の域に達し、高血圧治療ガイドラインを見ても他の心血管リスクを勘案し、循環器リスク総合管理指針へと変遷しつつあります。これらの時代背景をふまえ、現時点における高血圧学の集大成を試みると同時に、今後どのような発展が期待されるのか将来への展望を示すことができると考えたからです。特別企画では「いかにすれば高血圧を撲滅できるのか—未来への展望」、「高血圧の新規発症を予測する—効率的な高血圧治療の確立を目指して」、「食塩と高血圧を再考する—高血圧治療の原点に還る」、「我が国発の大規模研究が明らかにした高血圧に関するエビデンス—日本からの最新エビデンスを総括して次のガイドラインを占う」の他に、「JSHガイドライン改訂に向けて—世界のガイドラインをどう活かすか徹底討論」とし、本学術総会全体を「高血圧治療は究極の目標へ」のテーマに沿って構成したつもりです。最後のセッションは、同時通訳し日本語と英語それぞれのサテライト会場も設置しました。

新しい試みとして、第一線の現場の医師によるワークショップ「家庭医からみた高血圧治療の秘訣」や高血圧学会では初となる男女共同参画プログラム「高血圧学の魅力とキャリアアッププラン」、三次元画像や動画を駆使して視覚的に理解するビジュアル・セッショ



写真1◇ポスター会場となった「天守の間」と「生死分け目の高血圧」の屏風

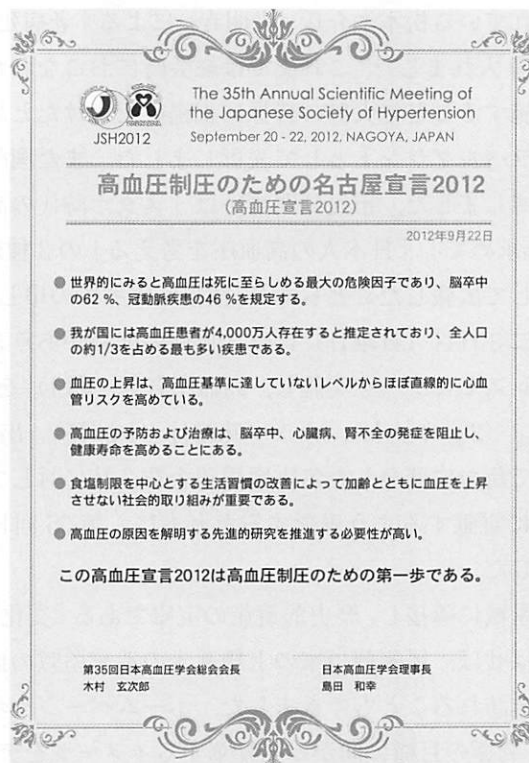


図 1 ◇名古屋宣言 2012

ン（脳、心、腎それに血管の3領域）、肺高血圧との類似性を考える「体高血圧と肺高血圧の接点：新しい視点」、必須の知識を確実に理解するための初学者向けの“丸わかり”セミナー（10課題）も新設いたしました。運営面でも事前登録を取り入れ、参加費は同じでも、能楽鑑賞の夕べやランチョンセミナーへの予約を可能としたことで、約1,000名の方々に利用いただき、初日受付の混雑を緩和するうえで有効であったと考えています。また、Myスケジュールというソフトを導入し、WEBやスマートフォン上でプログラムを検索したり、抄録を読んだり、自分の参加すべきプログラムスケジュールを事前に確認することが可能となり、多くの若者に人気となりました。ランチョンセミナー時のメニューを初日は減塩の櫃まぶし、2日目はDASH（Dietary Approaches to Stop Hypertension）食、3日目は減塩の味噌カツ弁当と予告したのもはじめてであり、期待通り大いに喜んでいただけたと感じている。

今回、特別プログラムが多かったこともあり、一般演題は、Late-braking, TOP 10, 各領域の高得点演題以外はすべてポスター発表とさせていただきました。ただし、ポスター会場をナゴヤウエスティンキャッスルの中でも最も格調高い「天守の間」に設定したため、名古屋城を眺めるよい雰囲気の中かで発表を楽しんでいただき、活気で溢れていました。ブースも和のテイストでほぼ統一され、プロの茶道家による呈茶と和菓子のサービスも非常に好評でした（写真1）。折りたたみ式のコンgresバッグも長く活用いただき、この学会を懐かしく思い出していただければと願っています。

学術面のみならず、文化面にも力を注ぎ、名古屋城のライトアップや人間国宝である久田翁による能楽鑑賞の他に、有名な小泉武夫氏による「塩をめぐる食文化と日本人の知恵」

や活発に布教活動をされている松本圭介氏（光明寺）による「老病死の生命倫理と死生観」（生命倫理講習会）も取り入れました。これまでは総会時におこなわれていた表彰式をすべて能楽鑑賞の直前に実施することで大勢の皆様にご祝福いただけたと思う。研修医や海外からのすぐれた演題はトラベルグラントとして表彰しました。また国際セッションも能楽堂でおこなわれ、好評を博しました。市民公開講座は「メタボ時代の高血圧に気を付けて」、「高血圧治療の理想像を求めて」、「日本人の高血圧を考える」の3種類を企画しました。さまざまなチャンネルを通して広報したこともあり、往復ハガキでの申し込みにもかかわらず、いずれも満席で、とくに3日目（日曜日）には3倍強の応募がありました。

学会最終日午後にはプレスセミナーを実施し、高血圧宣言（図1）¹⁾を発表しました。また、減塩を強化したラーメン（3gカット）、カップ味噌汁（1g/杯）、出汁醤油（80%カット）をこの学会開催に際して新たに開発した名古屋周辺企業3社に対して、日本全国そして世界へ普及させ健康増進に貢献するよう表彰するとともに、第35回日本高血圧学会推奨食品との称号を付与しました。

本大会の会場は名古屋城に隣接し、歴史的遺産の宝庫である「文化のみち」の起点となっています。少し足を伸ばせば、尾張徳川家の上級武士の武家屋敷の面影が残り、豊田佐吉や福沢桃介などの旧邸を訪れることもできました。ホームページやポスターは、この「文化のみち」から出発し、究極の目標に向かって昇華するイメージをデザインしたものです。同時に、名古屋から世界へ情報発信したいとの願いも込めました。大会のロゴマークは、心臓と腎臓に敬意を表し名古屋のシンボル「金の鯨」を冠にいただきました。学問のみならず文化的側面からも実り多い学術大会にすべく総力をあげて準備した甲斐あって、多くの皆様方に御参加いただけたことに心より感謝申し上げる次第です。

文献

- 1) Kimura G, Shimada K : Challenge for overcoming high blood pressure : Nagoya statement 2012. *Hypertens Res* 35 : 963, 2012

<木村玄次郎[独立行政法人 労働者健康福祉機構 旭労災病院 病院長(学会時は名古屋市立大学大学院 心臓・腎高血圧内科学 教授)]>